



じゃがいものおうち通信

2002年11月5日
NO. 33

～ 障害者と共に歩む仲間たち～

「じゃがいものおうち」 〒891-4404 屋久町尾之間136-6
TEL/FAX 09974-7-3588

発行責任者 松田 正

屋久島の障害者福祉のこれから

10月1日から発育に心配のある子どもさんをもつお母さんたちの、大きな期待を背負ってかねての念願であった療育が始まりました。会場からは今までにないお母さんたちの明るい声が漏れ聞こえてきて「ああ、良かった」という思いです。

社会は、障害がある人、ない人、障害の程度が軽い人、重い人、さまざまな人たちで構成されています。「障害をもつ」ことが「不幸なこと」にならないように、障害者ケアが提供される社会をつくるのは、みんなの役割であり、責任であると思います。

“じゃがいものおうち”はそんな社会の要請に応えるためにも、皆さんの協力を頂きながら一緒に屋久島の障害者福祉を育てていきたいと願っています。今検討を進めているNPO法人化もそのための一つの方法です。1月予定の定例総会では法人化への是非を話し合う会にしたいと考えています。

「こんな暮らし方をさせてやりたい・したい」という声を“じゃがいものおうち”に届けてください。
(松田)

「手をつなぐ育成会」鹿児島大会参加の感想

と き：9月28日(土)・29日(日)
と ころ：鹿児島市民文化ホール
主 題：新しい福祉における家族のエンパワメント(下記註)
(主体性の確立)～福祉維新を九州から～

大会スローガン

- ・育成会活動の原点に立ち戻って、新たな旅立ち!
- ・みずからの手で多様な福祉ニーズと良質なサービスを創出しよう!
- ・家族も支える本人本位の地域福祉!
- ・ネットワークで支える人権擁護!

上記のような主題とスローガンで行われました。



分科会「私たちはこんなことをやっています。」に参加して

私は手をつなぐ育成会というのは知的障害者とその家族で組織されていて、国・県・市町村から認知されていると言うぐらいしか認識しておらず、とまどいながらの参加でした。

大会のセレモニーは、主催者の進行通り何事もなく終了しましたが、午前中の講演を私用のため聴くことが出来ず大変残念でした。分科会は、それぞれが別々の分科会に出席しました。

私は「私たちはこんなことをやっています」

喫茶・レストランなどへの取り組み。

NPO法人の使い勝手のよさ という分科会に参加しました。

の課題については、手をつなぐ育成会が、作業所と雇用という意味から、それぞれがそれを立ち上げるまでの苦労話がほとんどで、都会型の取り組みのため屋久島では、役に立ちそうに思えませんでした。

の課題については、“じゃがいものおうち”が来年度にはNPOの資格をと考えておりましたので、非常に参考になりました。それぞれの育成会では、組織で限定されていること以外をやるときには、NPOを立ち上げてやっているようで、この屋久島のNPOも“じゃがいものおうち”だけでなく、もっと広域でやれたらいいのにと感じました。

全体的な感想としては、参加するまでは、正直おっくうな気持ちでしたが、終わってみれば、皆が真剣に一生懸命やっているのがよく分かり、自分の気持ちにいい刺激となりました。今後はこういう会にはできるだけ多くの人に参加すればいいなあと思いました。
(鈴木)

(註:エンパワメント:empowerment)...「権限、機能、能力を与える」ことを意味する言葉です。

社会的に不利な立場に置かれてきた人たちが主体性を回復し、社会的役割を遂行し、自己決定する力を高めていくこと。

分科会「福祉就労と雇用問題について」に参加して

今大会を通して印象に残った記念講演について少し述べてみたいと思います。北海道伊達市地域生活センター所長の小林さんは、自ら障害者として、障害児の親として、そして支援者として八面六臂の活動を続けておられ、グループホームをはじめ、同居アパート、生活療、一般下宿、生活実習ホーム、自立アパートなど、障害者のニーズを点から線、線から面へと広げ、地域の中で、障害者が当たり前前の生活が出来るよう、社会的ネットワークを活用し、24時間のホームヘルプサービスを取り入れているとのこと。

働く人は、それぞれの居宅から仕事に出かけているとのこと、企業に6割、作業所に4割という比率を聞いて、この支援センターが地域を耕しているなあーと思いました。この事実を支えているのは、センターのきめ細かな地域支援のシステムがしっかりしている事をうかがわせました。

ノーマライゼーションという言葉は、かなり一般化したとは言え、実際はほど遠い感はぬぐえません。障害者の雇用の促進（消費者感覚でのサービスの買い手になれる程の生活費の確保）や住宅や医療、社会参加の場の拡充など、解決すべき問題は山積みしているのが現状です。

来年度からは国の制度が措置費から契約、支援費制度に変わり、保護の枠組みから選択、自己決定へ移行しますが、各自治体の首長や議会、職員の福祉に対する関心度によって格差が出てくる事は必至です。こんな時だからこそ、伊達市のようにしっかりとした地域支援システムづくりを屋久島の中で根づかせたいという小さな願望を持って帰島した次第です。（四宮）

分科会「幼児療育への親のかかわり方」に参加して

手をつなぐ育成会は、成人の人達が主になっているせいか、幼児療育の第一分科会の参加者は、27名と少ない人数でした。おかげで、座談会的にそれぞれの人が意見を交換することができました。

乳幼児の早期療育の必要性を求められる現在・当事者である親自身も様々で、障害の受容については、デリケートな対応が必要である。まず、障害を認知しそれに対するよりよい方法を探す事が大切であり療育の場があることを早く知らせる。

今後は地域の福祉システムに参加しメンバーとなり、要求するのではなく発案する立場に立ってほしい。手をつなぐ育成会の幼児部会を作り、若い親たちの多くの参加を求めてゆきたい。といった内容が活かされました。

これからは福祉の新しい時代がやってきました。育成会の運動は地域を基盤に「手をつなぐ」輪であります。『右手にロマン！左手にソロバン！私の頭にさんぜんと輝いたのがこの言葉でした。（楯 篤雄）

分科会「新しい福祉への家族の対応」に参加して



九州地区手をつなぐ育成会の分科会で、「新しい福祉への家族の対応」に出席しました。平成15年4月から始まる障害者介護支援費制度と施設契約制度への家族の心構えです。まとめは、サービス利用者と提供者への対等な関係の確立、信頼と納得が得られるサービスの質と効率性の向上、情報公開等による施設事業運営の透明性の確保です。現在屋久島にはショートステイも何もない現状です。このままですと制度ばかりが先に進み、受けられる立場の障害者の人達の親が理解できない状態になるでしょう。障害を持った人が、地域であたりまえの生活ができるには人々の理解が大切です。でも屋久島ではこのことが遅れているのか、姿を見せない障害者が沢山居ます（親も）。福祉の充実を実現していくには、親たちが団結して町へ訴えていかなければならないし、この制度はいいチャンスだと思います。一日も早くショートステイが建設できることと、できることでしたらデイセンターが屋久島にできたら素晴らしい事です。福祉サービスが遅れないように皆で頑張らなければと思います。（大久保芙美子）



平成14年10月1日、屋久町尾之間にオープンしました、屋久島子ども発達支援センター「おひさま」が誕生し大変うれしく思います。開園式にも参加させて頂き少しずつ人的環境も変わると感じたところです。福祉の現場で働くものとして、老人福祉も大切ですが、未来のことを考えると児童福祉が遅れているのでは?特に福祉、教育、医療、保健の連携で「おひさまに」通園して保護者も子ども達もQOL(下記註)



の良い生活をおくり、発達して頂ければと思います。福祉を歴史的に見ると、1970年頃までは経済的貧困に対する援助が中心でありました。1970年から1980年頃までは入所施設を中心に社会福祉施設をつくってきました。しかし、日本の社会福祉は1990年以降は、高齢者も障害者も可能な限り地域で家族や友人と暮らせるような在宅福祉に移ってきました。子育て中の核家族が子育て不安やノイローゼにならないような支援もすることを含めて、すべての人々が地域で自立生活をおくれるようどう支援するかです。介護保険では家族だけが介護を負担するのではなく、地域で、社会で介護を担うという「介護の社会化」へと転換していきます。あの糸賀一夫氏が言った『この子らを世の光に』といった言葉に負けない施設の名称「おひさま」が屋久島の福祉のおひさまとなって、屋久島は福祉でも世界一素晴らしい住みよう地域社会となっていくことを望み、開園のお祝いの言葉とさせていただきます。



(訪問介護事業所ステーション愛子 代表取締役徳永憲次)
(註: QOL...Quality Of Life: 生活の質)

感動の大運動会

平成14年10月26日中種子町で熊毛地区「手をつなぐ育成会」大運動会が行われました。私の姉(50才)は、生まれて初めての運動会・トッピーと経験をしました。



乗る前は酔わないだろうか心配?それはいとも簡単にクリア。今度は運動会という(和)の中に入れるかが心配?それも、一緒に行ってくださった皆さんのあたたかい声援で初めての50m走、障害物競走とクリアしていった。

わたしは、ただただ涙があふれて「今日来て良かった」ところからおもいました。姉もイキイキしていた。「まみよ、たのしかったね」のことばが、私の色々な不安な気持ちをぬぐい去ってくれました。

皆さんの一生懸命な姿を見て、自分にも何か活力をもらっているような気がした。姉もいつか大好きな踊りの中に、入っていたらいいなーと思いながら皆さんに拍手を送りました。来年は母達も、いっしょにこの感動を味わえたらいいなーと思います。

「りえ ファイト!」



(渡辺まみよ)

「これからの行事予定」カレンダーに赤丸印をつけてネ！

- 11/10 (日) 午前9時 ジャがいもの植え付け(尾之間の畑集合)
持ち物 弁当、お茶、コップ、はし、お椀、当日は芋煮をします。乞う、ご期待！
- 11/15 (金) 夜7時 (安房公民館2階) 安房小学校PTAとの交流会(座布団持参)
- 12/1 (日) ジャがジャが千恵袋 午前10時 (拠点)
持ち物 弁当、お茶、コップ、はし、エプロン、軍手、当日は木工作品をつくる予定
- 12/30 (月) もちつき大会 午前9時 (拠点)
今回は手をつなぐ育成会、子ども発達支援センター「おひさま」との交流も考えています。詳細は後日に連絡。

新しい仲間が増えました。皆さんよろしく！

- 一般会員 鈴木 義之さん、(高平) 高山 宏子さん、(原)
- 賛助会員 武田 章子さん、(高平)
- 団体会員 屋久島ガス株式会社、(安房)



『こんな人いますよ!!』コーナー1人め (花のおじさん峰平さんについて)

いつも私達を和ませてくれる、カウンターを飾る花々と花の苗は、平内に住む峰平さんのプレゼントです。苗は3年もかけてようやくジャがいものおうちに運ばれてくるものもあるといいます。私達は今まで知らなかった花の存在や名前を知って、感嘆したり喜んだり幸せになったり。峰平さんが私達にくださるのは花や花の苗というモノではなく、その中に宿る幸せの種子だと想うわけです。何の気負いもなく、さりげなく幸せの種子を蒔くという技は誰もが持っている技ではありません。峰平さんに出会えたことを私達は心から喜び感謝しています。

「喫茶 ジャがいも」(裕子)

送迎ボランティアのお願い

10月1日より療育が始まりましたが通園のための送迎をお願いできないでしょうか。療育が必要な子どもたちはまだ体力も弱く、特に冬の期間は風邪をひきやすく路線バスでの通園が不可能になります。そこで親子共々乗れる車をお持ちの方で、時々なら手伝えるよという方は連絡をいただけないでしょうか。登録して頂いた方に前もって連絡した上でお願いすることになると思います。今のところ遠方の場合、宮之浦～尾之間になる予定です。

なお、ボランティア保険料、ガソリン代程度はこちらで負担できると思いますので、下記まで連絡をいただけたら嬉しく思います。

“ジャがいものおうち” TEL 7-3588

(松田)

編集後記

久しぶりの通信となりました。また編集後記も書けるスペースがあったので、これも久しぶりの掲載となりました。

今号から連載となる新しいコーナー、『こんな人いますよ!!』コーナーが出来ました。毎回「ジャがいものおうち」に関わって下さっている人を紹介します。編集後記はスペースしだいです。

今回通信作成にあたって、お手伝いをしていただいた方はたくさんいたのですが、忘れてしまいました。すみません。そしてありがとうございました。またの機会にもよろしく願いします。

(編集)